

第25回シン・ケアラボ@きたかみグループワークまとめ 2023.06.30 ～概要版～

令和5年度の共通のテーマ：みんなで描こう「重層的支援体制」のカタチ

職種別参加申込者

コード	職種（分野）等	申込人数	参加人数	※今回のゲスト※ 話題提供者 社会福祉法人 岩手ひだまり会 ひだまり北上 ☆キラリ 所長 島津愛郎 氏
1	医師、歯科医師			《スタッフ名簿》 進行役（MC） ホームケアクリニックえん 櫻井 茂（MSW） 運営委員 宇夫方 稔（SW）/障がい 近藤 理智生（OT）/リハ 高橋 寛美（CM）/包括 竹花 由香（SW）/包括/MC 田中 美由喜（CM）/居宅 千田 優子（助産師）/子育て
	看護師、助産師（医療）	5	4	
	薬剤師	6	6	
	医療ソーシャルワーカー、事務職等	2	1	
2	介護支援専門員（居宅）	11	10	事務局（在宅きたかみ・市長寿） 柴内 一夫（医師） 佐藤 晃（看護師） 菊池 涼子（MSW） 石川 晴基（SW） 小原 智子（課長補佐） 石山 美貴（包括支援係長）
3	介護福祉士、介護職員、相談員等（介護事業所）	10	9	
4	地域包括支援 保健師・看護師	2	2	
	社会福祉士	2	2	
	主任介護支援専門員	1	1	
	認知症地域支援専門員			
	生活支援コーディネーター	1	1	
5	理学療法士（PT）	2	2	
	作業療法士（OT）	3	3	
	言語聴覚士（ST）			
	その他リハ職（デイケア、柔道整復師等）			
6	障がい福祉施設職員（管理者、相談員、就労支援員など）	4	4	
7	社会福祉協議会（全職種）	1	1	
	行政 保健師、管理栄養士	7	7	
	社会福祉士、ケースワーカー、相談員等	3	3	
	事務職	1	1	
8	福祉用具販売等職員（民間）			
	NPO、各種団体、その他民間事業所	5	4	
9	保育、助産師（地域）、こども関連			
合計		66	61	

※1 当日申込受付が2名含む

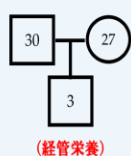
※2 欠席の出たグループ（J）に話題提供者（島津氏）を加え、61人12グループで実施した。

【グループトーク】

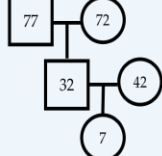
◆対話に入る前に・・・

グループで使用する仮想のジェノグラムをつくってください
ルール 障がいのある子ども、医療的ケア児を含めた家族

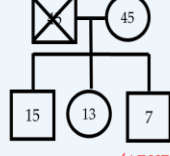
例)



(経管栄養)



(自閉症)



(ADHD)

★発表★

- こんな話があった、盛り上がった
- こんなことに気がついた、初めて知った
- みんなに伝えたいこと・・・

★対話テーマ1★

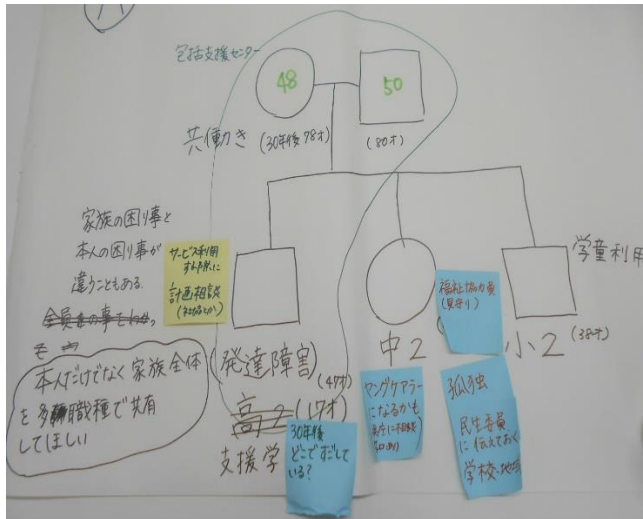
- ・その家族に必要な支援、起こりそうな問題は何ですか？
- ・その問題を解決するために活用できる“制度”“機関”“サービス”は何ですか？

★対話テーマ2★

- その家族に自分が関わる場合、ライフストーリーのどの時点で、どのように関わるのが考えられますか？
- ・その時にどのように支援のボタンを受け取り、次へどのようにつなげますか(つなぎたいですか)？
- ※ 家族全体のライフストーリーから、今、〇年後、〇十年後

グループA (6人)

◆メンバー構成：薬剤師、介護支援専門員、ショートステイ施設長、包括（SC）、社協、NPO団体



《世帯の特徴・問題・関わり》

[共働き夫婦・子ども3人]

長男 (発達障害あり/支援学校)

・長女 (中2) と二男 (小2) が7つちがい

[問題になりそうなこと]

- ・長女がヤングケアラーになる可能性
- ・二男は学童利用も日中の見守りが必要
- ・長男の将来のことが不安
- ・両親、30年後はどうなってるか

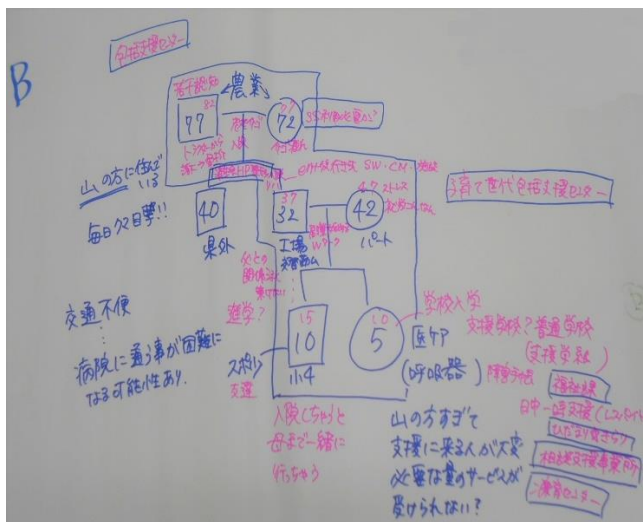
《つなぎ・気づき》

- ・福祉の多職種
- ・民生委員、学校
- ・社協、包括

障がい者本人と家族の困り事は違うこともある。家族全体を多職種で共有するしくみが必要。

グループB (6人)

◆メンバーの職種等：医療SW、介護支援専門員、看護師、主任介護支援専門員、保健師、民間経営者



《世帯の特徴・問題・関わり》

[三世代の同居家族/交通不便地域]

5歳児 医療的ケア児

- ・祖父 (77 歳) 認知症、骨折入院歴
- ・32 歳父は工場交代勤務、母はパート

[問題になりそうなこと]

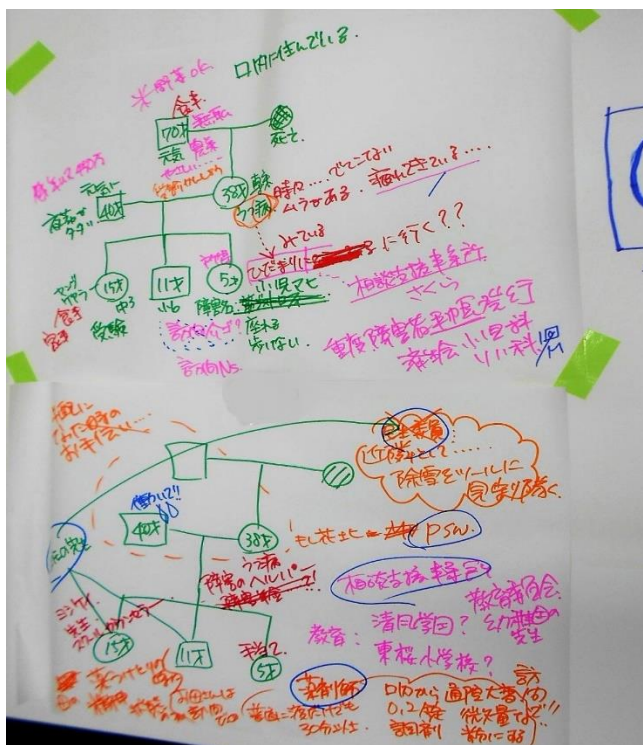
- ・祖母と 42 歳母は介護のWケアで疲労
- ・5 歳児の進学先 (支援 or 普通)
- ・10 歳児は父との関係希薄なりがち
- ・祖父の介護どうする？
- ・病院など遠くて通院、通学困難

《つなぎ・気づき》

- ・障がい、子育て、こども療育、長寿介護、福祉事業所、病院、介護施設
- ・どの世代も問題が起きやすい環境にある。
- ・様々な分野の多職種が関わって支えることが必要。

グループC (6人)

◆メンバーの職種等：薬剤師、介護支援専門員、介護施設相談員、理学療法士、保健師、民生委員



《世帯の特徴・問題・関わり》

[三世代の同居家族/山間部在住]

5歳児 重度障害児 (小児マヒ)

- ・祖父は元気 (農業) で未健診
- ・父 (40) は夜勤多い仕事
- ・母 (38) うつ病 (引きこもり気味、疲労)
- ・長女 (15) 長男 (11) はヤングケアラー？

[問題になりそうなこと]

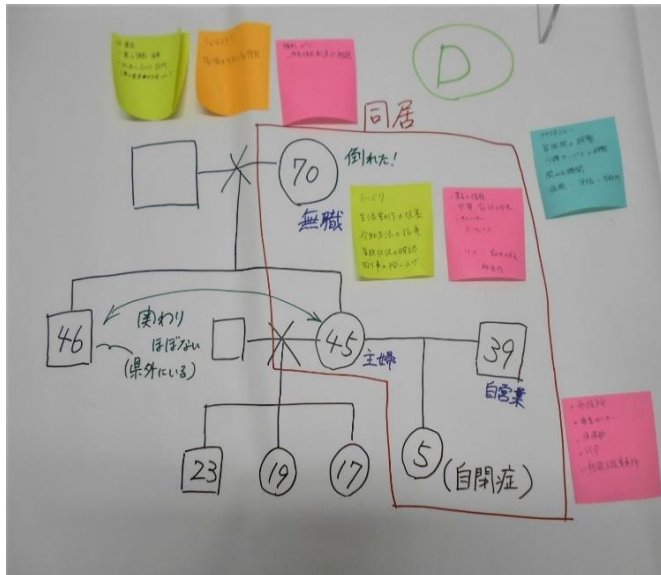
- ・母が重度化しないよう環境改善必要
- ・長女は受験控えている。長男も進学。
- ・5 歳児の進学先 (支援 or 普通)、ケアプランの調整
- ・遠隔地で通院や薬の受領が困難
- ・祖父もいずれは介護の可能性
- ・介護や家事の父の参画どう促す？

《つなぎ・気づき》

- ・病院、薬局、介護、福祉事業所、市役所、包括
- ・学校、SSW、民生委員
- ・重身障害児を中心として家族全体の生活を公的サービス、学校、地域でどう支えていくか。父の存在はどうか。薬局ができることで新たな気づき。

グループD (5人)

◆メンバーの職種等：調剤助手、介護支援専門員、介護職員、理学療法士、社会福祉士



《世帯の特徴・問題・関わり》

[離婚歴のある三世代家族]

5歳児 自閉症スペクトラム

- ・祖母(70)倒れて運動機能のリハ中
- ・前夫と母の間に3人の子どもあり
- ・母の実兄(46)は県外で関わり薄い
- ・父(39)は自営業で忙しい

[問題になりそうなこと]

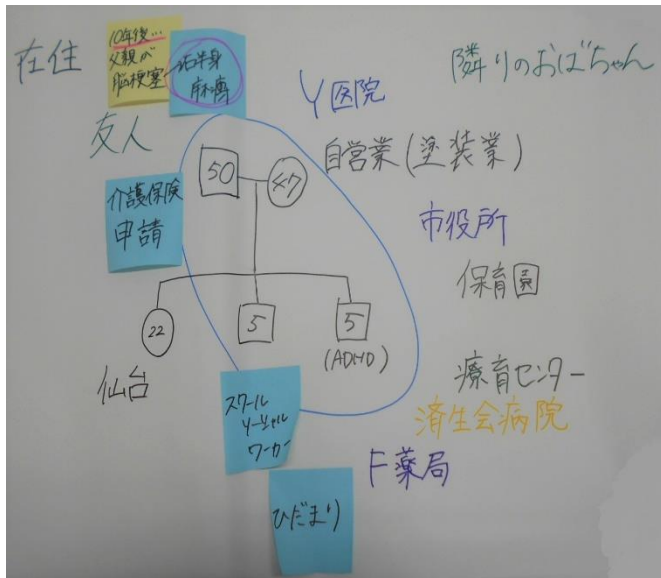
- ・ダブルケア状態になる可能性あり
- ・母のレスパイトできるか？
- ・家族間の協力が得られにくい
- ・5歳児の将来の不安

《つなぎ・気づき》

- ・病院、包括、介護事業所、リハ職
 - ・市役所、民生委員
- 祖母が倒れ、状況が一変(よくあるケース)。家族が共倒れにならない体制を整える。ケアマネ調整だけでは。小学校進学時の対応どうするか。

グループE (4人)

◆メンバーの職種等：薬剤師実習生、介護支援専門員、作業療法士、行政(社会福祉士)



《世帯の特徴・問題・関わり》

[塗装業を営む両親と子3人家族]

5歳児(双子?)の弟 ADHD)

- ・現在両親は健康だが、10年後に父が脳梗塞で右半身麻痺となった想定
- ・ADHDの5歳児は保育園、療育センターが関わっている
- ・年の離れた長女(22)は協力？

[問題になりそうなこと]

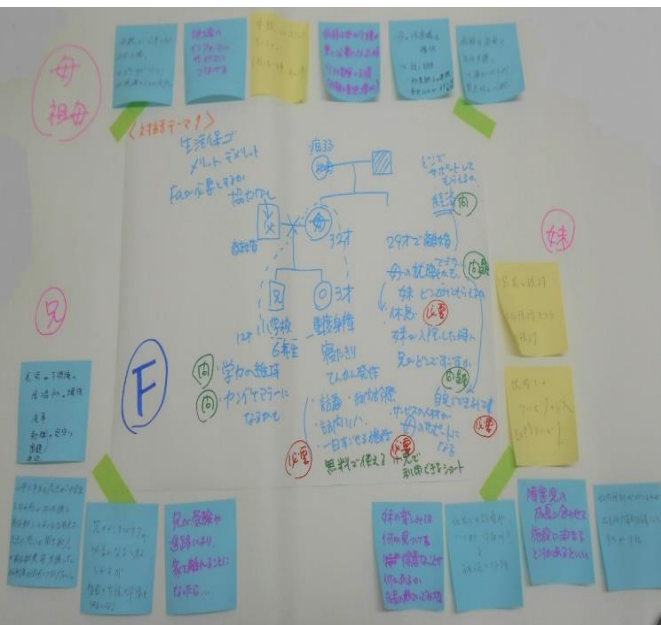
- ・父が倒れる10年後はまだ15歳
- ・経済面での不安も出てくるかも？
- ・友人や近隣の協力が望めるか？

《つなぎ・気づき》

- ・市、保育園、学校、病院、薬局
 - ・地域(近隣・友人)
- 自営業の父が60歳で倒れた場合の想定は難しかったか？母の対応、弟のADHDが兄に影響及ぼすか？今後多職種が関わる必要ある。

グループF (5人)

◆メンバーの職種等：薬剤師、主任介護支援専門員、グループホーム施設長、作業療法士、行政(社会福祉士)



《世帯の特徴・問題・関わり》

[祖母同居のひとり親家庭]

3歳の娘 重身障害児/寝たきり

- ・祖母は病弱
- ・母は娘の世話で疲労あるが休めない
- ・別れた父は非協力的
- ・兄(小6)は進学控えている

[問題になりそうなこと]

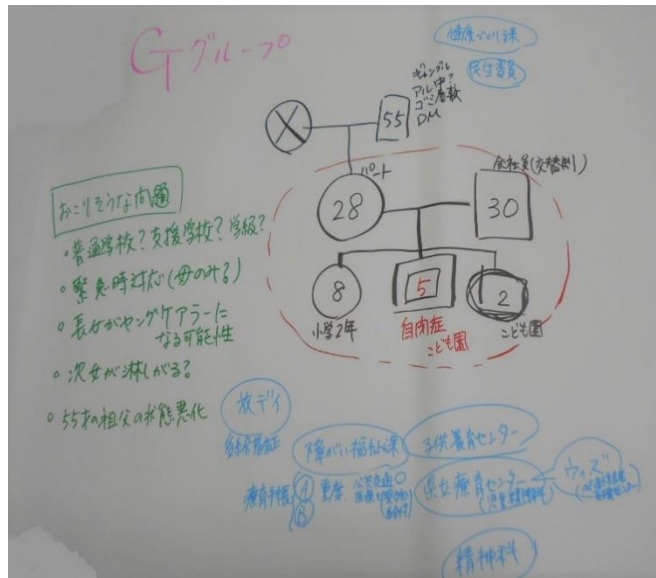
- ・生活困窮、経済的サポート必要
- ・兄がヤングケアラー恐れ、居場所？
- ・母の疲労蓄積、就職もできない
- ・娘の医療福祉サービス、預ける場所がないなど。

《つなぎ・気づき》

- ・介護福祉事業所、病院、学校、市、社協
 - ・就職できる企業
- 子どもが重身障害児、医療的ケア児の場合、親は相当期間在宅ケアに時間を取られる。就職もできない。医療・福祉サービスの充実喫緊の問題でもある。ダブルケアの危険は常にある。

グループ G (5人)

◆メンバーの職種等：看護師、介護支援専門員、デイサービス相談員、相談支援専門員、行政（保健師）



《世帯の特徴・問題・関わり》

[共働きの若い夫婦と子3人家族]

真ん中の5歳児 自閉症

- ・父(30)は交替制の会社員、母(28)はパート従業員
- ・別居の祖父は独居でゴミ屋敷状態
- ・姉(小2)と妹(2)の3人兄弟

[問題になりそうなこと]

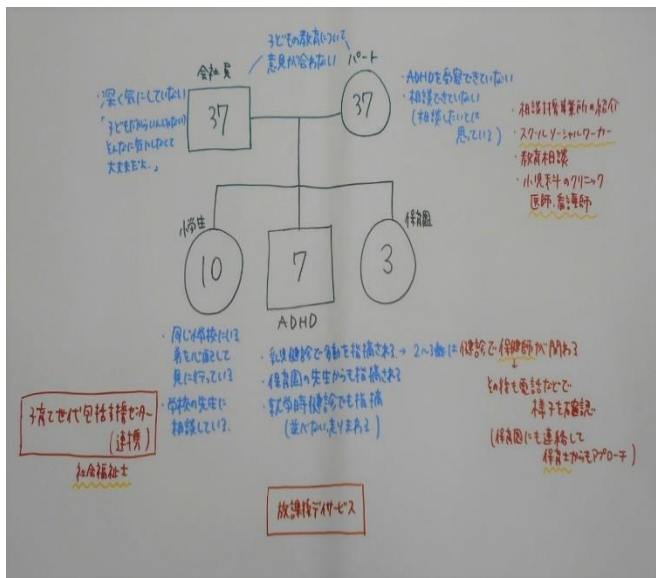
- ・ 5歳児の進学先（放課後デイ利用）
- ・ 姉がヤングケアラーの可能性
- ・ 妹が孤独、淋しい、母の負担増
- ・ 祖父の状態悪化（アル中、糖尿病）

《つなぎ・気づき》

- ・市、療育センター、福祉事業所、学校
・社協、民生委員
-
- 3人の育児で多忙の中、祖父の存在も負担になりそう。兄弟の関係、夫婦関係、親子関係、今後いろいろ問題が起こりそう。福祉サービスの有効活用で。

グループH（5人）

◆メンバーの職種等：看護師、介護支援専門員、デイサービス職員、包括（SW）、行政（保健師）



《世帯の特徴・問題・関わり》

[共働き夫婦と子3人家族]

真ん中の7歳児 ADHD

- ・父(37)会社員、母(37)パート
- ・市健診で2歳頃からADHD指摘
- ・姉(10)は小学校の先生に相談している
- ・両親が受容できていないため、具体的な公的ケアに結びつかない

[問題になりそうなこと]

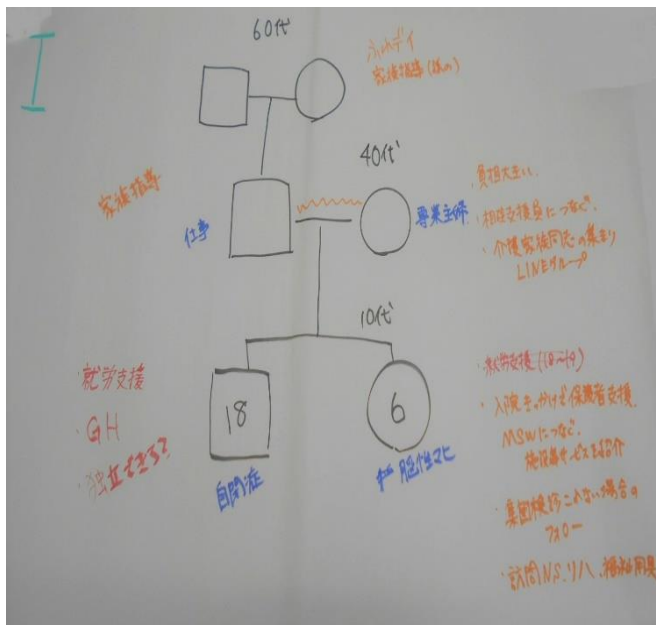
- ・両親の意見が合わないので進まない
- ・専門家への相談を促す必要がある。
- ・兄弟への影響も出てくる可能性ある

《つなぎ・気づき》

- ・市、保育園、学校、放課後デイ、相談支援事業所、病院
-
- 誰が主体的に両親と話を
するか。保健師、学
校、医療機関、福祉専
門職？兄弟への影響や
負担も今後増してくる
恐れもある。

グループⅠ（４人）

◆メンバーの職種等：看護師、包括（SW）、就労支援員、行政（保健師）



《世帯の特徴・問題・関わり》

[三世代の同居家族、子2人]

長男(18歳)自閉症、妹(6歳)脳性マヒ

- ・祖母はふれデイ、孫の世話もする
- ・母は40代専業主婦、孤立しやすい
- ・長男は高校卒業控えている

「問題になりそうなこと」

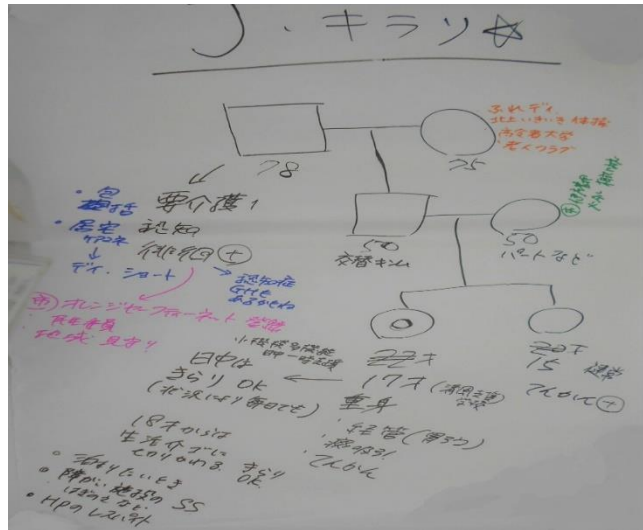
- ・母の負担が大きく疲労が心配。保護者支援団体を紹介し仲間を増やす。
- ・長男卒業後の行先、就労支援？GH？独立できるか？
- ・妹の医療・福祉サービス支援は病院と福祉事業所との連携支援必要

《つなぎ・気づき》

- ・市、病院、福祉事業所、学校
 - ・当事者団体、地域
- 祖父母もまだ元気で介護の手伝いも期待できるが、二人の子どもともにケアが必要で母の負担軽減と父の介護参画は必要。当事者団体から情報を得ながら、福祉サービスを効率的に活用する必要あり。

グループJ (5人)

◆メンバーの職種等：介護支援専門員、包括（保健師）、障がい施設管理者、行政（保健師）、島津氏（ゲスト）



《世帯の特徴・問題・関わり》

〔三世代の同居家族/子2人要支援〕

長女(17歳) 重身障害児/経管等

- ・祖母元気も祖父は要介護1（認知症有）
- ・父(50) 交替勤務、母(50) パート
- ・妹は健常も「+てんかん」

〔問題になりそうなこと〕

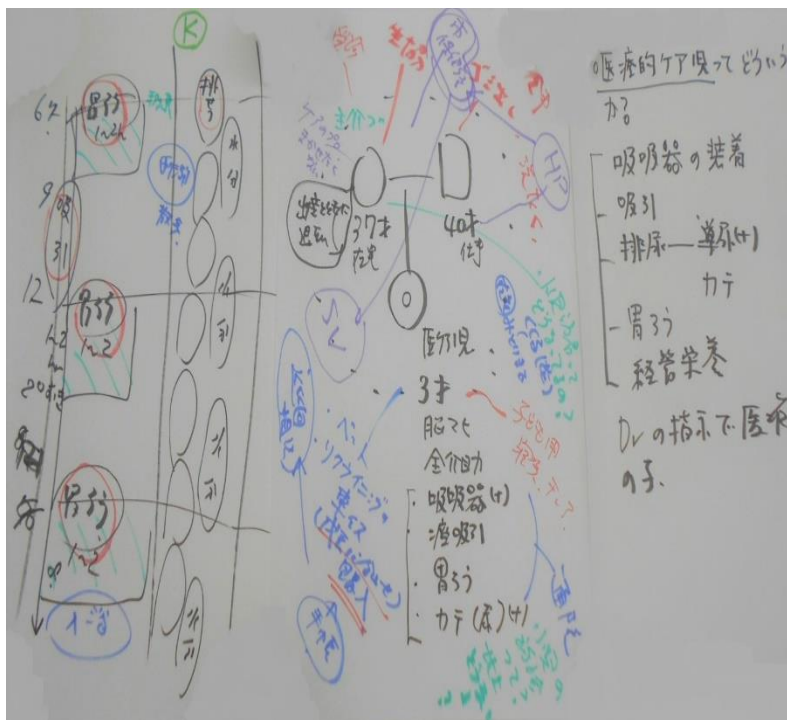
- ・母がメンタル弱っている。ケア必要
- ・祖父の認知症悪化しないよう各種支援
- ・長女は18歳でサービス変更必要
- ・父の介護参画が必要

《つなぎ・気づき》

- ・市、病院、支援学校、福祉事業所、包括、介護事業所、民生委員、地域
- 18歳で障害児から障害者サービスに移行する壁が存在する。認知症施策は充実してきており心配ないが、母の精神不安解決が先か？

グループK (5人)

◆メンバーの職種等：看護師、介護福祉士、包括（保健師）、相談支援専門員、行政（保健師）



《世帯の特徴・問題・関係》

〔両親と子1人の家族〕

3歳女児 医療的ケア児

- ・母は出産同時に退職
- ・父は家事を手伝う
- ・脳性マヒ全介助、呼吸器、痰吸引、胃ろう、尿カテ、経管栄養
⇒24時間休む時間がほとんどない（1日の動きから）

〔問題になりそうなこと〕

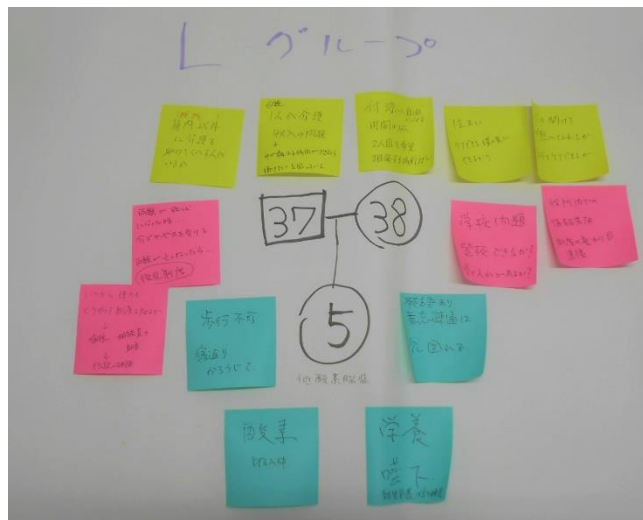
- ・両親、特に母の疲労はどうか？（母は自分でやりたい）
- ・休む時間はつくれるのか？
- ・サービス調整、地域の支援はできるのか？

《つなぎ・気づき》

- ・病院、医療・福祉訪問サービス、施設、市
- 医療的ケア児を在宅で看ている典型的な例。24時間休む暇もないほどたいへん。レスパイト先が少なく、慣れた専門職でないと難しい。どんな支援が必要か？当事者団体からの情報を得る。公的サービスの充実が望まれる

グループL (5人)

◆メンバーの職種等：薬剤師、介護支援専門員、特養施設長、作業療法士、行政（事務職）



《世帯の特徴・問題・関わり》

〔両親と子1人の家族〕

5歳女児 医療的ケア児

- ・低酸素脳症、発語あり意思疎通は少しできるが、歩行困難、経管栄養
- ・2人目の子どもを希望している

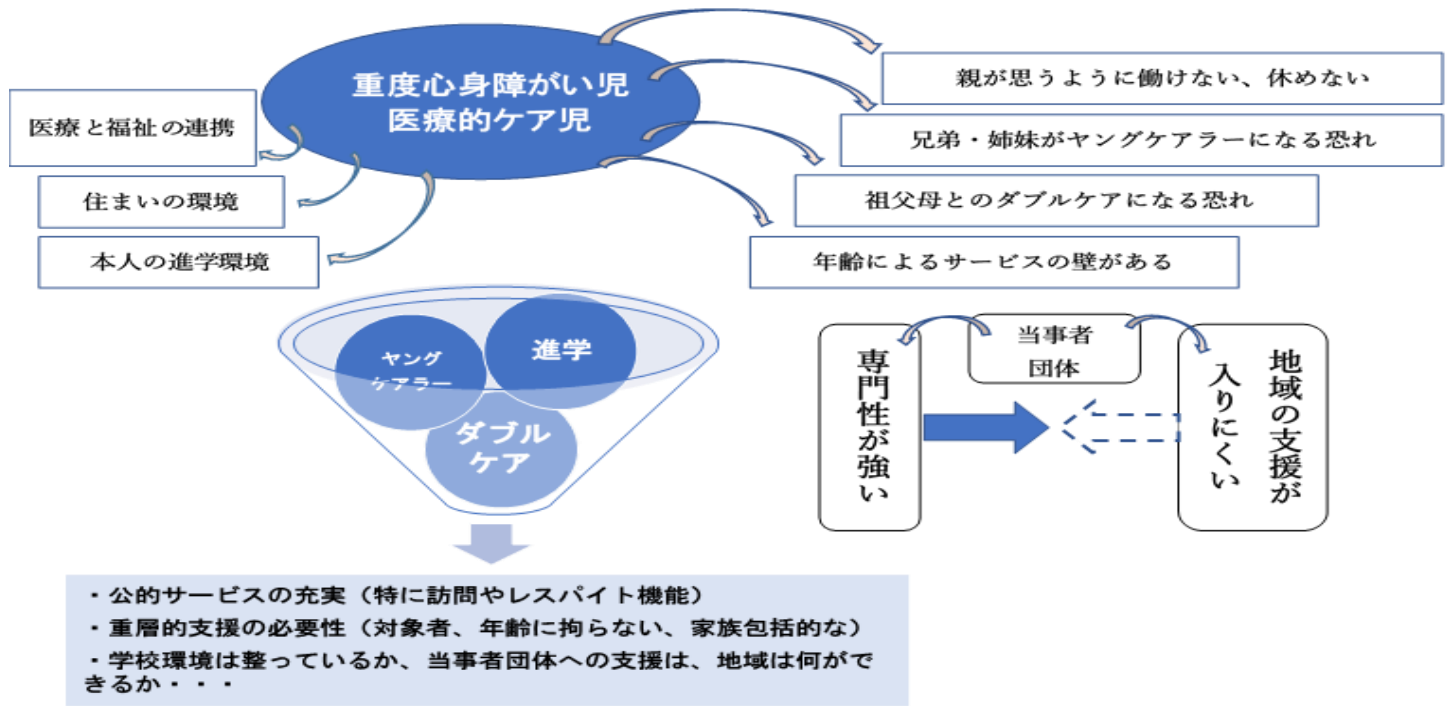
〔問題になりそうなこと〕

- ・母の働く時間がない
- ・学校どうする？通える？
- ・住まいの環境はどうか？
- ・関係機関の連携がうまくとれるか？

《つなぎ・気づき》

- ・病院、市、学校、福祉事業所、親族
- 医療的ケア児を在宅で看ている。日頃のケア、進学のこと、第2子が出来た時のこと、両親が将来介護状態になった時のこと、など不安は尽きない。学校や親族からの支援が必要

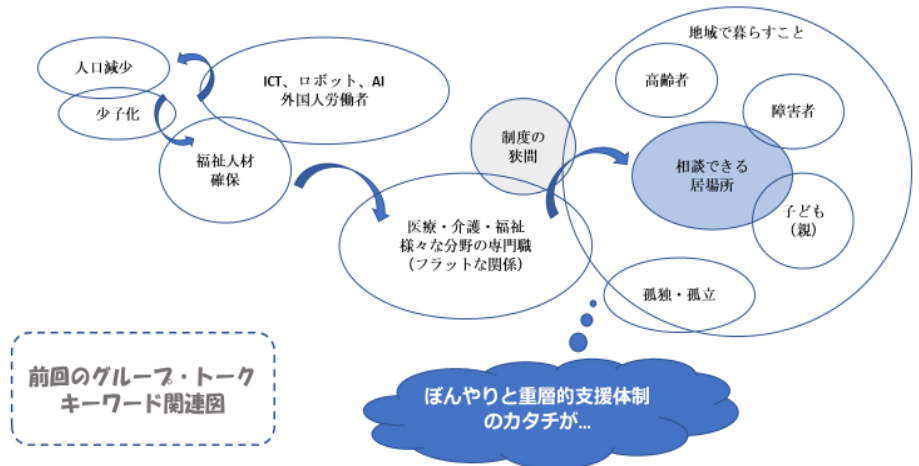
第25回グループトーク 関連図



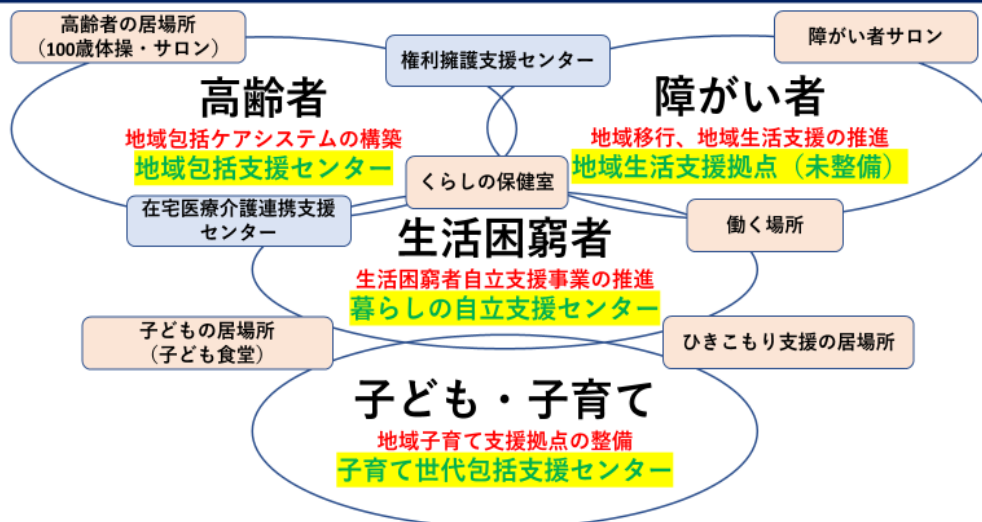
◆第25回は「障がい児・医療的ケア児」とその周りの環境について、仮想の家族をつくりグループトークを実施しました。専門的知識も必要な難しい題材ではあったが、多職種協働、重層的支援とはまさにこのような場面で威力を発揮してくれそうです。

前回の関連図や福祉4分野の公的支援体制図を見ても、官民問わず多職種、他分野、地域がつながる支援体制の構築が必要です。

第24回グループトーク 「10年後の社会は、どうあってほしい？」



福祉4分野別の公的な相談支援体制から地域づくりへ



福祉4分野といわれる「高齢者」「障がい者」「生活困窮者」「子ども・子育て」がどのよに結びつき、家族ぐるみ・地域ぐるみの支援体制が構築できるのか。それを有機的につなげる民間団体や地域組織の存在はますますクローズアップされる貴重な資源です。今後も多職種の専門職同士、専門職と地域との交流を進めていく必要があると感じます。